

責任者	商学部長	作成部局	商学部
-----	------	------	-----

2021年度に向けた教育研究目標

【A票:教育研究目標1】						
(タイトル)						
高度な能力を有するビジネスパーソンの養成						
(狙い内容)						
高度な専門知識と管理の技法、そしてグローバルに展開する現代経済・社会の理解に不可欠な総合的教養の修得						
1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)						
より一層専門的な知識と総合的教養を身につけた学生を輩出するため、入学時における学力を担保し、併せてカリキュラムの整備を進める。						
2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。						
2008年中央教育審議会の答申では、AO入試入学者の学力担保が必要であることが指摘されたが、本学部におけるAO入試入学者の学業成績は他の入試形態での入学者と比べ必ずしも高いとはいえない。したがって、AO入試を中心とする各種入試について、その出願資格を見直すことにより、入学時における一定の学力担保を図る。また、入学後においては、商学部における6コース制を基礎とするカリキュラムは、すでに策定後10年以上が経過しており、依然として十分に機能している部分もある反面、時代の要請に応じて適宜修正を加える必要がある。						
3. 達成度評価						
評価指標	出願資格を見直し、カリキュラムを一部改編する。				評価尺度	A: 見直し・改編が完了している。 B: 見直し・改編の作業が行われている。 C: 見直し・改編について議論がなされている。 D: 見直し・改編に着手していない。
4. 年度毎の目標値						
2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
C	C	C	C	B	B	A

【A票:教育研究目標2】						
(タイトル)						
国際化時代・情報化時代におけるグローバル人材の育成						
(狙い内容)						
言語やIT、企画・提案など幅広い分野にわたるコミュニケーション能力や意思決定能力の高度化						
1. 6年後(2021年度)の目指す姿(目標)						
学部における語学教育・専門教育を踏まえ、海外の高等教育機関(主に本学協定校)において、語学能力を生かしたビジネスコミュニケーションや専門能力を活用したローカルビジネス研究など、ビジネス教育プログラムを一層充実・発展させ、グローバルマインドを向上させる。また、国際化時代に対応できる適切な英語コミュニケーションスキルを備えた人材を育成するため、学生個々の学力水準に応じたきめ細かな英語教育システムを整備する。						
2. 上記の目標を設定した背景、課題及び現状分析について、記述してください。						
グローバル化が進展する一方、学部生の海外経験は限定的である。本学部でもカナダ・マウントアリソン大学とダブルディグリー制度を実施しているが、必要とされる英語力や費用・期間などの面で、学部生が取り組むには課題も多い。英語能力に応じた、かつ休学することなく春休みや夏休みを利用した短期・中期プログラムの開発・提供が海外経験への導入として望まれる。また、グローバル化が進展する時代において、英語コミュニケーションスキルに対する社会的需要はますます高まりつつある。他方で、企業の要求水準を満たす人材が十分に輩出されていないという事実は、現在の大学が直面する大きな課題である。より効率的かつ効果的な英語学習の機会を学生に提供することが必要である。						
3. 達成度評価						
評価指標	習熟度別クラス編成が進み、その効果を受けて、海外の高等教育機関での単位取得数が増える。				評価尺度	A: 下記Aの尺度を共に満たしている。 B: 下記Bの尺度を共に満たしている。 C: 2015年度に比べて変化がみられる。 D: 2015年度のクラス数・単位数から変化がない。
4. 年度毎の目標値						
2015年度(現状)	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
D	D	C	C	B	B	A